

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームあつたかハウス伊集院
(ユニット名)	あ い
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県日置市伊集院町下神殿1366-1
記入者名 (管理者)	高田由子、町田大介
記入日	平成21年3月31日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「あったか地域であったか交流、みんなで作ろうあったかの輪」を基本理念に職員全員で取り組んでいます。また、地域密着型サービスの意義を理解し、入居者様が住み慣れた地域で安心した生活を送り、地域の交流を大事にしながら生活をしていける様にとの思いで理念を作っています。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	あったかハウスの基本理念「ゆっくり、ゆったり、けれどもしつかり」を朝礼時、職員で唱和しています。またフロアの壁にも見やすく掲示しています。また、ミーティング時や申し送り時に話し合い、新人職員にも必ず理念を伝え、理解してもらっています。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	あったか便りや月1回の御家族様へのお便り発送、また地域交流会などを催し、理念に伴って接しています。また、玄関先やフロア内に大きな文字で目にとまりやすい所に掲示しています。また地域交流会などに来られた方達にも説明を行っています。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職場体験や福祉体験に来られた中学生にあったかハウスの前を通った時には気軽に寄ってもらうよう、声掛けしています。季節のイベントにも参加してもらっています。また、あったかハウスの隣で畑を作っている方との交流もあり、話をしたりしています。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域交流会に老人会の方々の参加を頂いています。また地元の運動会には自治会の方より招待をいただき、毎年参加させていただいています。また、その際には自治会長さん、民生委員さん、老人会長さんにも声掛けし、行政、社協の方にも声掛けしボランティアの方をご紹介頂いたり、協力を頂いています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	月行事開催の度に参加の声掛けを行ったりお茶飲みに寄って頂いたり世間話をするような雰囲気作りに取り組んでいます。また、茶話会や地域交流会の時に老人会の方々をお招きした際、主治医や施設長よりグループホームをわかりやすく説明し、地域に溶け込めるように努力しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義や目的を職員みんなで再確認し意見を出し合っています。また指摘された点は改善に向けて努力し、結果は全体ミーティングで報告し改善に向けて話し合いの場を設けて、サービス向上出来る様取り組んでいます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで運営推進会議を開き、各委員の方々に近況を報告し、それについての意見や助言をいただいたり写真つきの冊子を運営推進会議で使用し近況がわかりやすい様に説明をしサービス向上に取り組んでいます。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行事の際、社会福祉協議会にボランティアやフラダンスやひょっとこ踊りなど慰問の協力を頂いたり、入居者様や地域の方々にも大変好評で、花見の開催場所についてもお借りできるようにお願いをしたりと、助言やアドバイスも頂いています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	毎月1回のミーティングでわからない事や疑問に思った事があればその都度、みんなで話し合い、理解できるよう、勉強会を行なっています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念の気持ちで接し、余裕を持った対応を念頭に置き、職員間の言葉遣いや態度についてチェックし、日頃から気をつけて高齢者虐待に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所・退所時は経過や案内をご家族様にわかりやすく説明し、ご家族様の意見も聞き、納得された上で手続きをしています。また、必要に応じてリスクや料金についてご家族様やご本人に対して十分説明をし安心した生活が送れるようにご家族様との密な関係を保っています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員会を設けており入居者様・ご家族様・外部からの意見を真摯に受け止め、日常の会話の中から入居者様の思いを汲み取れる事もあります職員に言えない事もあり、ご家族様に話される場合もあるので面会時にお尋ねし、申し送り時やミーティング時等に話し合いの場を持ち運営に反映させています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のお便りで近況報告近況や健康状態の報告、行事等・写真も添えたりしています。時々、電話にてご本人がお話される事もあります。面会時等に金銭の預かり帳にも確認をしていただきサインや印鑑を頂いています(必ずレシートをつけて)。また、突発的な体調不良時にはお電話にて随時、報告しています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には面会時、お便り、家族会等常に問い掛け何でも言っていたり様々な雰囲気作りをしています。玄関の目のつく所に意見箱を設置したり第三者委員会を設けており苦情が出た際は理事長と解決の話し合いをし改善に努めて行く体制が出来ています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士、意見を言いやすい雰囲気の中でミーティングを月1回以上行ない、日々の業務の中で出た意見や提案を大切に改善に向けて活かしています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要に応じて柔軟に職員の配置を考えています。いつでも職員に連絡が取れる体制になっています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ数年、異動や離職がなく入居者様やご家族様に顔馴染みの職員が対応できています。基本的には各ユニットの職員を固定化していつもの職員によるケアを心掛けています。新しく職員が入る時は入居者様やご家族様にもきちんと紹介しています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に法人内外の研修に参加する機会を作り、出来るだけたくさんの方が参加できるようにしています。グループホームでは毎月テーマを決めて勉強会を開き、それぞれに意見を出し合い、向上に向けて努力しています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	あったかハウスは7ヶ所ある為、職員の意見や施設の雰囲気、取り組みや良かった点など参考にし向上に活かせるよう職員でミーティング時に話し合いをしています。また、自主的に研修や講習会にも参加し、色々な意見などを聞き、それを職場に持ち帰り職員全員に報告しています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各種イベント(歓迎会、忘年会など)を通じて、日頃よりお互いに意見を言い合える仲間作りをしているので、皆、楽しく勤めています。ミーティングの時などに普段思っている事などを包み隠さず意見を言って貰うようにし、必要時には個人面談を行い、一人ひとりとゆっくり話をし不満をなくす努力をしより良いチームワーク作りとストレス軽減に努めています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けた支援体制がしっかりしていて介護福祉士や介護支援専門員の勉強会も開催されています。積極的に参加するよう声掛け、今年介護福祉士試験を受験したスタッフが6名いた為、勉強会に参加し、向上心を持って資格取得に取り組みました。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談にて入居者様の生活状況を把握するため、まずご本人の話をよく聞き、職員との信頼関係を築く事に努めています。困っている事や不安な事などをお聞きし、毎日の色々な事に対して訴えなどが無いよう職員間で情報交換しています。また、聞き漏らしのないように申し送りノートを活用して、確認印を押す事により全員に周知徹底をしています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	今までのご家族様の苦労や、どんなサービスを受けてこられたか等の経緯をゆっくりとお聞きし、ご家族様が必要とされているものが何か状況を把握する事に努めています。そして、即、利用につながらなくても、現在お困りの状況をゆっくりと聞いて差し上げるだけで落ち着かれる方もおられるので、言葉掛けや表情などにも注意し、何でも話をしていただける雰囲気作りを心掛けています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	それぞれの専門員と相談し、ご本人、ご家族様を交えてご希望などをお聞きし他のサービス利用も含めて対応しています。また、早急に対応しないといけない方に対しては出来る限り柔軟な対応に努め、その方にとって最も必要なサービスが受けられる様、支援しています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来る限り、利用の前にご本人、ご家族様には事業所を見学していただくところから始め、ご本人やご家族様の意見を聞きながら少しずつ進めて行き、日常生活の中での雰囲気大事にし取り組んでいます。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ゆっくりと居室や談話室、庭などの空間を利用し、お茶のみをしながら昔の話や趣味、料理についてお聞きしています。その際、若い職員も多い為、言葉遣いや作法についてご指導を頂く事もあり、大変勉強になります。また四季折々の行事についても助言を頂いています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月お便りや花見や夕涼み会など一緒に参加して頂き、日常の事等を報告し互いに情報交換しながら安心して生活していただける様に心掛けています。それぞれのご家族様が御自分の親御様の事だけではなく全入居者様を大切に下さっているように思います。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族様と一緒に外出されたり、食事会や誕生会等にも参加していただき共に喜びを分かち合っていたるように支援しております。その時にはご家族様との写真を撮って、お便りに同封したり居室に飾ったりしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけでなく近所の方々にも立ち寄ってお茶を共にされたり、ドライブツアーを実施しています。また、地域交流会でボランティアの方達がそれぞれの地域の踊りを披露して下さったり、一緒に食事を共にし話をする機会を定期的に設けています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	七夕の飾り付けや地域の方達やご家族様に頂いた野菜などを使用し、漬物や佃煮などを一緒に作り、食事の一品に利用することで一体感を強め、茶話会や外気浴等しながら入居者様の方達に意見などをお聞きし、どういう事で困っているかや人と人との関係もみんなて話し合っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年賀状や暑中見舞いの発送を行なったり、入居者様やご家族様、御近所の方などの相談窓口になっています。退所された入居者様のご家族様より今でも作っておられる野菜やお米を頂いたりしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な方にはご家族様から情報や意向をお聞きする様にし、一人ひとりの健康状態等を考慮しながら行なっています。それぞれの居室で、ゆとりを持った会話をし、その方の言葉や表情から真意をくみ取り確認するようにしています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの経験や生活歴などをご家族様やご本人にお聞きしたり、情報交換することで、自力で出来る事などはしていただいています。色々な会話などを増やしていき、聞き入れることで把握に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者様一人ひとりのライフスタイルに合わせ、例えば、車椅子の方でも座って出来る作業(おしぼりたたみや洗濯物たたみなど)自立されている方には掃除や洗濯物干しを職員と一緒にしていただくと、その方の現状を総合的に把握するように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各入居者様ごとに担当者を決めて、気づいた点を情報収集し毎日の申し送りやミーティングなどを通じ意見や要望、ご本人の思いを聞き出し、ご本人やご家族様に、日頃よりご意見や、ご要望など無いかをお聞きして、その方に合ったケアプランの作成をしています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人、ご家族様の要望を伺いながら主治医の意見も取り入れ、見直しを行い状態が変化した場合はその都度、見直しを行なっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	あったか独自のモニタリング表や申し送りで職員間の情報共有を徹底し食事や水分量、排泄状況や本人の行動などを記録し、介護計画の見直しに役立てています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、受診や入院の回避、医療処置を受けながら安心して生活が送れるように支援しています。また、ご本人やご家族から外出等のご希望があれば連絡を取りながら対応させていただいています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員さんやボランティアの方々など行事の際はお招きし参加していただいています。近隣の中学生の体験学習や福祉体験も積極的に受け入れています。年2回、防火訓練などで民生委員さんやご家族様にも声掛けし参加していただいています。また地域の図書館から本や紙芝居を借りたり社会福祉協議会からレクリエーションの機材を借りたりしています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他事業所やケアマネジャーと相談をし、ご自宅や他事業所へ移られる際には、当事業所での生活状況をお伝えする事によって支援しています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加されるようになり様々な情報や支援に関する情報交換をし、協力関係を築いています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ゆのもと記念病院やまえはらりハビリクリニックと医療連携を図りながら、常に状況報告に努め、体調の変化を早期発見出来る様に支援しています。また協力医の他、入所前からのかかりつけ医での医療を受けられる様にご家族様と協力し、通院介助を行なっています。		ご家族様には入所時、説明し了解して頂いた上で医療連携、居宅療養管理指導を受けて対応しています。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作り、全職員が入居者様一人ひとりの排泄状況を把握し声掛け、トイレ誘導する様にしています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はお好みの日、時間にしていただけるように配慮しています。また声掛けしても体調不良を訴えられたり、その時の気分で入浴されない場合は、無理強いせず清拭や更衣などで対応しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	出来るだけ日中の生活リズムを整えるよう努めていますが、入居者様の希望に応じ、昼寝など声掛けしています。就寝時、「眠れない。」との訴えがあった場合、お話をしたり温かい飲み物などをお出しし安心して眠れるよう対応しています。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	若い職員も多いですが食事作りや畑の手入れ、梅干し、干し大根作りなど入居者様の経験や知恵を発揮する場面を作っています。外食ツアーなどの楽しみごと入居者様と相談しながら行なっています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来るだけ買い物などをする機会を増やして行き、金銭感覚を持てるよう支援し金銭感覚のある方に対しては少額のお金をお渡ししご本人の欲しい物を購入していただいています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者様の意思に沿い、散歩などは安全確認と見守り、必要時の介助について戸外での気分転換を図っています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	食事ツアーなどや地域の行事などに参加されたり、お彼岸の墓参りなど行かれています。その際、けがや転倒の無い様、細心の注意を払いお連れしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が家の事やご家族様の事を気にされたり不安な気持ちを表情に出された際は、ご家族様へ事務所の電話の子機を使用し、自室等で気兼ねなくお話していただいています。職員がご家族様にお便りや年賀状などお出しする時には「手紙に一筆書きませんか？」と声掛けしお便りや写真を発送出来る様支援しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時は入居者様が戸惑われないように、しばらくの間は職員が間に入り、さりげなく間を取ったり自室にお茶やお菓子等をお持ちして気兼ねなく寛いでいただいています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様が安全かつ安定した生活が送れるよう月1回のミーティング時に全職員で話したり勉強会で身体拘束について勉強し、拘束をしないケアに取り組んでいます。なお常に見守りしているので拘束は一切行なっておりません。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者様の外出パターンをつかみ、職員同士の連携プレーを徹底し、見守りや声掛けをし安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援しています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員はさりげなく入居者様全員の状況を把握する様に努めています。夜間は巡視を行なって入居者様の様子を確認し、24時間、入居者様の安全に配慮しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日々の生活の中で、注意の必要な物は何かを職員で把握し管理が過剰にならないようにしています。薬や洗剤、刃物の管理には特に注意しています。また刃物を使う時は職員が見守りの中、使用していただき、刃物は毎回使用したら冷蔵庫に収納しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から想定される事故を職員で検討し、事故を未然に防ぐよう取り組んでいます。また、事故やヒヤリハットの事故原因を確認し、今後の事故防止について検討しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て応急手当や普通救命講習を受講しています。また、救急対応マニュアルもあり、夜間でも対応できる様に職員の周知徹底を行なっています		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、火災、地震、水害などを想定し消防署の協力のもと、防火訓練を行なっています。また災害に備え食料や飲料水などの物品を準備し、消火器や避難路の確保の点検を定期的に行なっています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族会等で主治医よりリスクに関して説明し理解を得られるよう努めています。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の生活の中でいつもと違う様子が見られた場合は、バイタルチェックを行い、早期発見に努めています。状況に応じて看護師や主治医に連絡し、医療連携を図っています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各モニタリングに服薬管理表を整理しており職員が内容を把握し服薬時は薬名、服用方法きちんと確認しています。また、薬に関して疑問に思った事や気になる事は直接、薬剤師さんに電話などして副作用や飲み合わせについて教えていただいています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日々の水分量をチェックし食事に関しても栄養バランスの良い物をお出ししています。レクリエーションなどで軽い運動を取り入れる様にしています。またオムツ使用の入居者様も、定期的にトイレ誘導、介助トイレで排泄する喜びを得てもらうように努めています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、職員が声掛けし力によっては職員が見守り、介助を行なっています。夜間は義歯の方はポリデント消毒も行なっています。また月1回の訪問歯科にて指導を頂いています。また勉強会を行い、口腔内の清潔が肺炎などの病気を予防するきちんとした技術を身につけるようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好を把握し、栄養士さんとの栄養バランスを考えながら献立を考えています。食事量や水分量をチェック表に記録しています。また透析の方がいらっしゃる為、定期的に病院や栄養士さんにチェックしていただいています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	全体ミーティング時に、感染症対策について勉強会を開き、感染症の流行や対応策について情報を学び、みんなで確認しています。また入居者様及びご家族様に同意をいただき、職員も毎年インフルエンザ予防接種を受けています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具については熱湯、日光消毒しまな板や台拭きなどハイターにつけています。また、冷蔵庫チェック表を作成し点検、掃除を行なっています。また新鮮で安全な食料を使うため、毎日スーパーに買い物へ出かけています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口に手作りの案内板を掲示し、玄関に生け花をいけたり明るい雰囲気になるようにしどなたでも出入りが出来る様に開放しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけは季節感のある物を、入居者様と一緒に作り心地よく過ごせるように努めています。また季節の食べ物(春は山菜、夏は畑で採れる野菜、秋は新米、冬は鍋料理など)をお出しし、季節を感じていただける様に努めています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを囲み、皆さんが全員と交流出来る様になっています。フロアにもソファを置き、入居者様同士でゆっくり寛げる自由な空間を作れるよう心掛けています。例えば冬には談話室にこたつを置き、仲の良い入居者様同士でお茶を飲まれたりテレビをご覧になられたりと常に寛げる環境づくりに努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様やご本人の希望により自宅から馴染みの物を持ってこられる方もいらっしゃいます。(座布団、ポアシート、小物、ぬいぐるみなど)ご家族様が自宅で栽培された生花を持ってきて下さり、花瓶に生けたりもしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計、湿度計を設置して常に換気に注意し冷暖房に頼り過ぎず、温度調節をこまめにおこなっています。また自室にポータブルトイレを設置している方がいらっしゃるのこまめに確認し、洗浄しています。また消臭剤を置いて悪臭の出ない工夫をしています。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わずかな段差や家具の配置など生活空間で転倒に繋がる原因がないかをチェックしたり車椅子と食台の高さが合わない方がいらした為、座布団を使用し食べやすい高さに調節したりと全職員で話し合い、改善に努めています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	状況に応じて環境整備に努めており状態が変わり、新たに混乱や失敗が生じた場合は全職員で話し合い、解決に向けて、情報を共有し合い、ご本人の不安材料を取り除く様に努めています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇や菜園を見に外に出て職員と一緒に水やりや草取りを行い、また天気の良い日などは外気浴や物干し場で一緒に仕事をしたり茶話会なども行なうことで入居者様がその人らしく過ごせる場として外回りの空間を活かしています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員と入居者様のふれあいや会話が多く常に笑顔が見られます。入居者様、職員との関係だけではなく一つ屋根の下で生活する大家族のような感覚で接しています。そのためにはご家族と地域の方々のご協力なしでは成り立たず、常に交流を図りながら自然に馴染んでいけるように努めています。また、医療機関との密な連携によりご本人とご家族の安心に配慮できています。